

やよい図書館TOPICS

年末年始休館日12/28(月)~1/4(月)は、返却用のブックポストがご利用できません。

館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

フレーズ
&
センテンス

「ぼくの脈拍は普通は一分間に50くらいしかない。かなり遅い方だと思う。」

私の個人的な話ですが、最近ランニングを始めました。ランニングウエアとともに、書店で目について購入したのがこの本です。人の脈拍は普通一分間に70～90程ですが、著者は長距離を走りつづける中で体が変わっていき、この数値になったのだそうです。走ることは小説の書き方を教えてくれ、活き活きと人生を生きる手助けをしてくれる、と著者は言います。世界的に有名な小説家の、ランナーの一面をぜひご覧ください。

『走ることについて語るときに僕の語ること』村上春樹／著 文藝春秋 (青山)

「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い！

アンジェラ・アキ×中学生

『拝啓十五の君へ』 ポプラ社

『平成20年度NHK全国学校音楽コンクール 中学校の部』の課題曲『拝啓十五の君へ』。この曲を書いたアンジェラ・アキは、中学生たちに直接歌を届けに行きます。そして中学生たちに、未来の自分に宛てた手紙を書いてもらいます。手紙の中には、部長としての不安や自分ってなんだろう？という思春期ならではの悩みが込められていました。アンジェラ・アキはそんな悩みを抱える中学生たちに優しいエールをくります。もう一度『拝啓十五の君へ』の歌を聴きたくなる一冊です。

(大塚)

原作本から入って良し、映画から入っても良し。

Cinema
library

第21回 チャーリーとチョコレート工場

★原作「チョコレート工場の秘密」著者：ロアルド・ダール 評論社

★映画「チャーリーとチョコレート工場」主演：ジョニー・デップ 監督：ティム・バートン

皆さん、チョコレートはお好きですか？ チャーリーが住む町には世界一広大で有名なウォンカのチョコレート工場がありました。しかし、働く人たちの姿を見たことがある人はだれもいません。そんな謎の工場に招待されたのは、金色の招待券を手にした個性豊かな5人の子ども達！ 楽しい工場見学になるはずが、次々とハプニングが起こって…？

映画ではエキセントリックな工場の経営者ウォンカをジョニー・デップが演じ、奇想天外な工場の様子がポップでカラフルな映像となって現れます。原作に込められたブラックユーモアちゃんと表現されていて、子どもだけでなく大人でも楽しめる作品です。しかし、原作とはかなり変わっている部分もあるので、ぜひ原作も読んでほしいところ。加えて、何といつても原作は文章が美しい！ 練り込まれ、考え抜かれた文章には、きっとあなたも虜になるはず！！

次回は『風が強くふいている』です。お楽しみに！ (丸山)



Vol.10

親子で「おうちえほん」のススメ

NPO法人「絵本で子育て」センター絵本講師 のぐち りえ



～我が子に「本」を贈りましょう～

★幼き頃の「本」の思い出

私が小学2年生ごろからだったでしょうか。読書好きの父は毎月1、2冊ずつ、会社帰りに本を買ってきました。それは、冒険物語や伝記だったり、学習漫画「日本の歴史」や「○○のひみつ」シリーズだったり。「たーだいま～。」の太い声に、太いベルトの肩掛け鞄からおもむろに取り出すカシヤカシヤッ！ と本屋の紙袋。新品の本の感触と匂い。食後のティータイムで果物を食べながら待ちきれずに読み始める私。子ども部屋に少しずつ増えていく“私の本”。新たに仲間入りした本の背表紙を眺めたり、右から左へ背表紙をす~っと撫でたりしていたことを今でもハッキリと覚えています。何を読んでいたかの内容よりも、そんな光景の方が鮮明に覚えているんですね。宿題やテスト勉強をするふりをして本ばかり読んでいる私。抜き足し足で子ども部屋へ、とにかく現場を押さえたい母との戦いは、数年にわたり続いたのです。



★この思い、(いつか) 子どもに届け！

さて、12月といえば、子どもたちが大好きなプレゼントの季節。これまで息子には玩具などのプレゼントに必ず「本」も添えて贈ってきました。それは絵本や図鑑、歴史漫画など色々なのですが、普段に買うものに比べると少々値が張るものだったり、ドーンと1

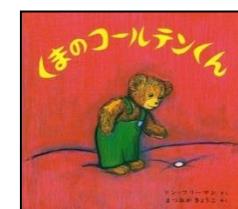
セットで箱買いしたりして、特別感を出してきました。しかしこちらが思いを込め、喜んでくれるだろうと贈った本に子どもが興味を示さないことも。それはそうです。所詮は“子ども”。面白いか面白くないか、読みたいか読みたくないか、そこに尽きるのでしょうか。我が家で10年以上続いている「おうちえほん」、息子の興味関心が成長と共に変化し、数年前は見向きもしなかった本を夢中になって読む姿をしてきました。いつか読んでくれるかもしれない。いや、ずっと読まれないかもしれない。私はそれでもよいと思っています。

★伝えたいのは、やっぱり親の愛

親になって思うのは、私のために毎月本を選んでくれた父のこと。「今月は何にしようかな」と数ある本の中から私のことを思い選んでくれた本には、間違いなく父の愛が詰まっています。我が子に本を選ぶ行為は、まさに「我が子への愛」そのもの。だからこれからも息子に本を贈り続けますよ。いつか息子が親となり、「これはパパが小さい時に読んでいた本だよ～。」ひょっとして覚えていてくれて「パパが子どもの頃、おじいちゃんとおばあちゃんに買ってもらった本だよ～」なんて言いながら、息子が孫に絵本を読んでやる姿を見るのが、私のささやかな夢です♡

今月の絵本

～贈り物の絵本～



作・絵
ドン・フリーマン
訳：松岡享子
出版：偕成社



作・絵
三浦太郎
出版：のら書店



作・絵
ふくざわゆみこ
出版：福音館書店

のぐちりえさんによる保護者向け講座 『絵本でリラックス！おうちえほんの楽しみ方』

12/9 (第2水曜日) 11:00～11:30 2階・音楽室 ※お子様連れ可（託児はありません）

〔事前申込制〕電話またはやよい図書館カウンターでお申込みください。